Openimg Ceremony 開会式

来賓：揖斐川町 町長 岡部栄一様

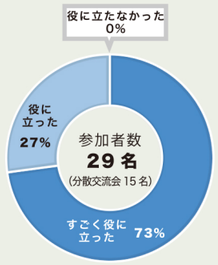
来賓：岐阜県農村振興課 課長 岩本英司様

した。すばらしい機会をありがとうございました」という、うれしいお声をいただきました。

地域資源と向き合う 現地の方々の息吹を肌で感じた！

第1フィールドワークでは、エスコーターの小寺多誉子さんの案内で揖斐茶や薬草をはじめとする地域資源を、説明していただきながら見学しました。

地域の発信基地「はるひの案内所」や「岐阜のマチュピチュ・天空の茶畑」、そして、放棄された茶の実を活用した取り組みなどを視察し、「ここしかない価値を創出されている方々のお話が大変有意義でした」「白川茶をどうしていくか、同じ岐阜県のお茶生産地域として良い意見を聞くことができた」などの声があり、たいへん好評でした。

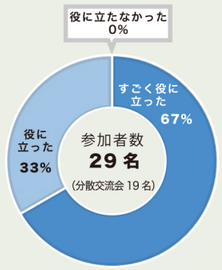


《第１FW＆分散交流会のアンケート結果》
＊FW= フィールドワーク

あなたの中にある「本物」をさぐる

第2フィールドワークは、開会式が開かれた揖斐川町地域交流センターから10分ほど歩いたところにある「宿屋揖斐川」で、オーナーの保井円（まどか）さんに案内していただきながら、お宿のコンセプトや大切にしていることを伺いました。

「宿屋揖斐川の接客スタイルや広報の仕方などを知り『本物』を伝えるための実施方法がとても参考になりました」「保井さんのお話のなかで、『本物にこだわる』ことの考え方が自分にとっては大変参考になった」などの声があり、学びの多さを物語っています。



《第２FW＆分散交流会のアンケート結果》

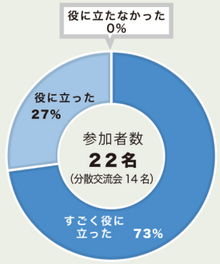
第3フィールドワークは、大野町にある「ホニャラノイエ」まで足をのばしました。

講師：アルベルゴディフーゾ・インターナショナル極東支部代表理事 上山康博様

「もてなさない」お宿のスタイルとは？

オーナーの加藤さんご夫妻とお客様の垣根のない関係がどんなふうに作られるのか、「もてなさない」「接客しない」スタイルとはどんなものか。

不思議をいっぱい抱えて参加したみなさんは、実際に現地でお話を聞いて、「万人に受けなくても、想いやコンセプトに共感されて人は集まるということが知れたことがよかった」「『自分たちが無理しないで続けられるように！』『来た人と人とがつながり未来につながる関わり方』が学べました」など、新しい発見にあふれた感想がたくさん寄せられました。



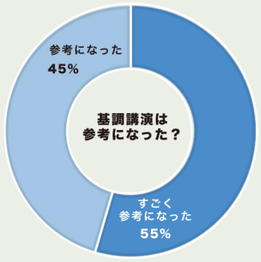
《第３FW＆分散交流会のアンケート結果》

そうだったのか！アルベルゴディフーゾ

日本には空き家が9百万戸あり、そのうち空き家バンクに登録されているのはたった8千戸ほど。多くのインバウンド客が日本の田舎を体感したいのに、実際に実現できている人はたった1割程度！

そんな現状を踏まえて、講師の上山康博先生は、「イタリアでは田舎の古民家を宿泊部屋に改修して、これを連携させて「分散型ホテル」として運営しています。この方法で活性化した農山村がたくさんある。これがアルベルゴディフーゾです」と教えてくださいました。

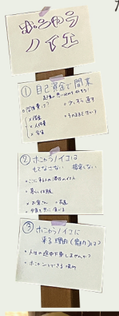
参加者からは「田舎（岐阜）の良さをあらためて感じました。特別な観光地でなくても、体験を提供しおもてなしができるアルベルゴディフーゾで、空き家を活用して災害に備えるということに感銘しました」「外国も含めた農泊に関するマクロトレンドが勉強になりました」「農泊の新しい概念を教えていただき、とても勉強になりました」など、新しい考え方に触れた喜びの声が多数寄せられました。



日本の田舎も、外国人の眼から見れば、独創的で魅力にあふれているはず。地域資源にしっかり向き合い有効に活用する方法は、まだまだありそうです。

大会の華　大交流会

今年の大交流会は67名という例年を大幅に上回る方々が参加してくださり、盛大におこなうことができました。

薬草の里らしいお料理や素朴さがうれしい郷土料理などがたくさんならび、「これ、おいしい！」という声が、あちこちで聞かれました。

「新たな出会いができて、今後の夢が広がった」「さまざまな地域で、グリーンツーリズムを実践している、これから実践していきたいという方々がいて、交流できたことがよかったです」「ご飯もお酒もおいしかったです！」「がんばってツーリズムしている、元気で前向きな人たちに出会えた」など、大会を通して仲間たちと交流できたことが大きな力に変わっていることを実感できる時間となりました。